

《ALTUS》

美しく壮麗な響き 名作交響曲目白押し!

ALTUS ベルティエニ集成6枚組



<p>ALT 488 (6CD) 国内プレス 日本語帯・解説・ 歌詞訳付</p>	<p>ベルティエニ／ケルン放送響 ライヴ・コレクション</p> <p>[CD1] (ALT-150) ベートーヴェン：交響曲第3番 変ホ長調『英雄』Op.55 録音：1989年8月31日／ケルン、フィルハーモニー</p> <p>[CD2] (ALT-151) ブルックナー：交響曲第7番 ホ長調 録音：1988年5月14日／デュッセルドルフ、トーンハレ</p> <p>[CD3] (ALT-152) R. シュトラウス：交響詩『英雄の生涯』 録音：1984年2月4日／デュースブルク、メルカトル・ホール</p> <p>[CD4] (ALT-160) ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 Op.92 録音：1987年3月1日／ケルン、フィルハーモニー ワーグナー：楽劇『トリスタンとイゾルデ』より 前奏曲と愛の死 録音：1988年3月25日／エトカーハレ・ビーレフェルト</p>	<p>[CD5] (ALT-161) ブラームス：交響曲第3番 へ長調 Op.90 録音：1990年6月1日／ケルン、フィルハーモニー ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 Op.98 録音：1977年11月18日／ケルン、ザール1</p> <p>[CD6] (ALT-162) ショスタコーヴィチ：交響曲第14番『死者の歌』 テレサ・カーヒル (ソプラノ) ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ (バス) 録音：1988年2月8日／ケルン、フィルハーモニー</p> <p>ガリー・ベルティエニ (指揮) ケルン放送交響楽団 すべてライヴ録音</p>
--	---	---

★ ALTUS から発売されたベルティエニ／ケルン放送交響楽団の音源を網羅した6枚組セット。日本ではマーラー指揮者として馴染みのベルティエニですが、ここに収録されているのはベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどの、マーラー以外の王道レパートリー。どれもベルティエニの音楽づくりの神髄が刻まれたもので、この指揮者を知るうえで欠かすことのできない名演奏となっています。ディースカウ参加のショスタコーヴィチの14番も聴きもの。解説書には既発盤の原稿をもれなく掲載しています。

★この『英雄の生涯』はケルン時代最良の演奏のひとつと言えるだろう。今回、ALTUS からこのライヴ集の企画を耳にした時、最も強くリリースをお願いした録音の一つである。私自身、マエストロの演奏の中でマーラー以外ではウィーンで聴いたシェーンベルグの《ペレアスとメリザンド》と並び最も印象深く記憶に刻まれている。(指揮者・井上喜惟氏の解説より)

クレンペラーの極意が詰まった大演奏 空前絶後の偉大なるベートーヴェン全集! 新規リマスターSACDでさらなる衝撃!



<p>ALTSA 2761/2 (2SACD シングルレイヤー) 国内プレス 日本語帯・解説・ 歌詞対訳付</p>	<p>〈2021年リマスターSACD〉 クレンペラー・フィルハーモニア管 1960年 ウィーン芸術週間ライヴ ベートーヴェン：交響曲全集 & 序曲集</p> <p>[Disc1] 交響曲第1番ハ長調 Op.21 (録音：1960年6月7日) 交響曲第2番二長調 Op.36 (録音：1960年5月29日) 交響曲第3番変ホ長調 Op.55『英雄』 (録音：1960年5月29日) 交響曲第4番変ロ長調 Op.60 (録音：1960年5月31日) 交響曲第5番ハ短調 Op.67『運命』 (録音：1960年5月31日) 交響曲第6番へ長調 Op.68『田園』 (録音：1960年6月2日)</p>	<p>[Disc2] 交響曲第7番イ長調 Op.92 (録音：1960年6月2日) 交響曲第8番へ長調 Op.93 (録音：1960年6月4日) 交響曲第9番二短調 Op.125『合唱』 (録音：1960年6月7日)* 《コリオラン》序曲 作品62 (録音：1960年6月4日) 《エグモント》序曲 作品84 (録音：1960年5月31日) 《プロメテウスの創造物》序曲 作品43 (録音：1960年6月2日)</p> <p>ウィルマ・リップ (ソプラノ)* ウルズラ・バーゼ (コントラルト)* フリッツ・ヴンダーリヒ (テノール)* フランツ・クラス (バス)* ウィーン楽友協会合唱団* オットー・クレンペラー (指揮) フィルハーモニア管弦楽団 すべてムジークフェラインザールでのライヴ (モノラル)</p>
---	---	--

★ ALTUS のベストセラーであるクレンペラーのベートーヴェン・チクルス、2021年新規リマスター盤! 音とジャケットデザインを一新して再びこの名演を世に問います。SACDシングルレイヤー2枚に交響曲全曲と序曲を収録、読み応えある充実の解説書もそのまま掲載しています。

★ワルターにとって最後のウィーンでのコンサートとなった、ウィーン・フィルとのマーラー4番が鳴り響いた1960年5月29日。その日の夜に幕を開けたのがこのクレンペラーとフィルハーモニア管によるベートーヴェン・チクルス。初日公演を生で聴いた外山雄三氏が「本当に凄い演奏」「指揮というのは、こんなふうにもできるのか」と感嘆し、山崎浩太郎氏が「EMIのステレオ・セッション盤と互いに補完しあって、クレンペラーの〈正体〉、芸術の奥深さを立体的に教えてくれるライヴ全集」と語る大演奏です。